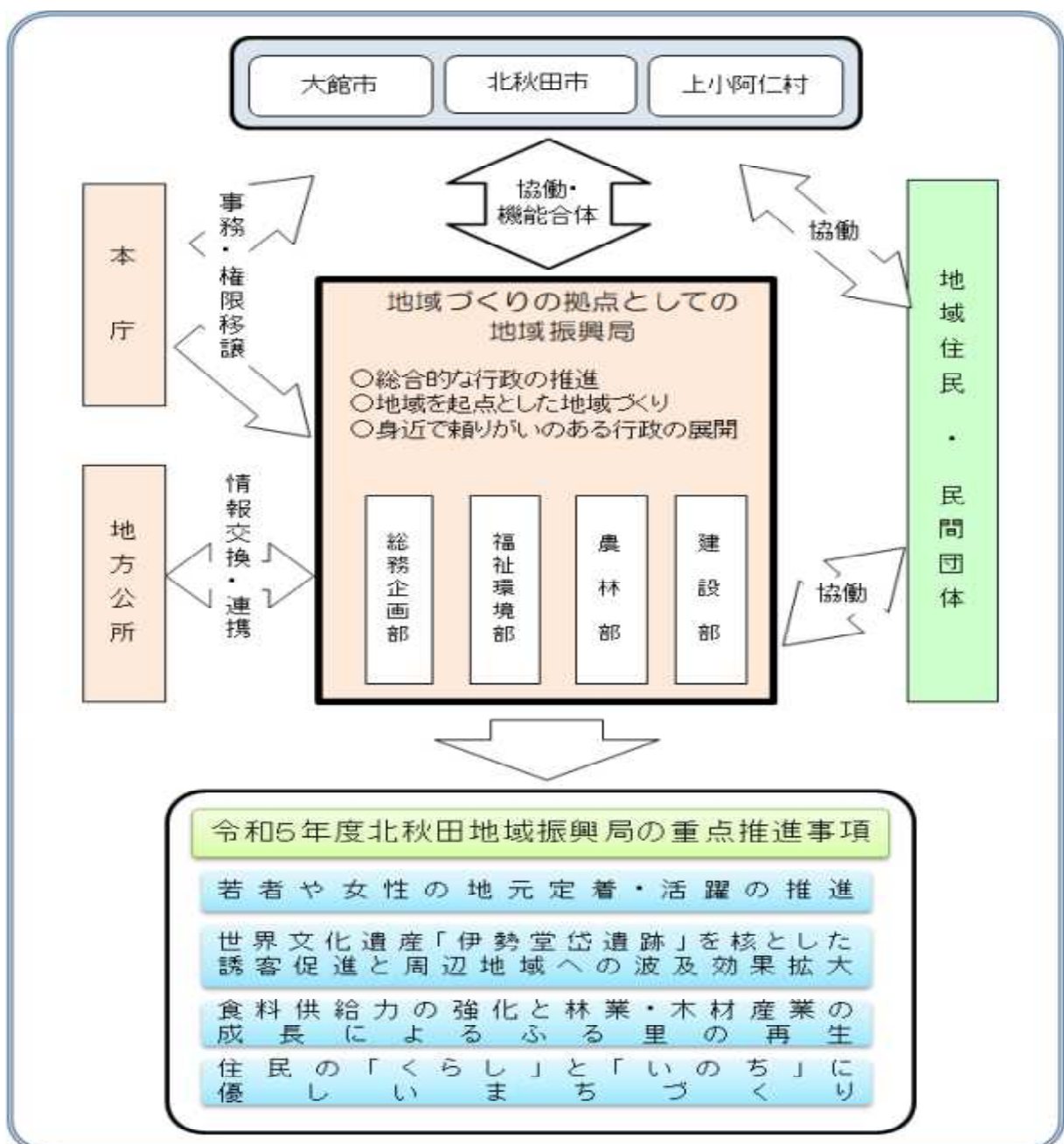


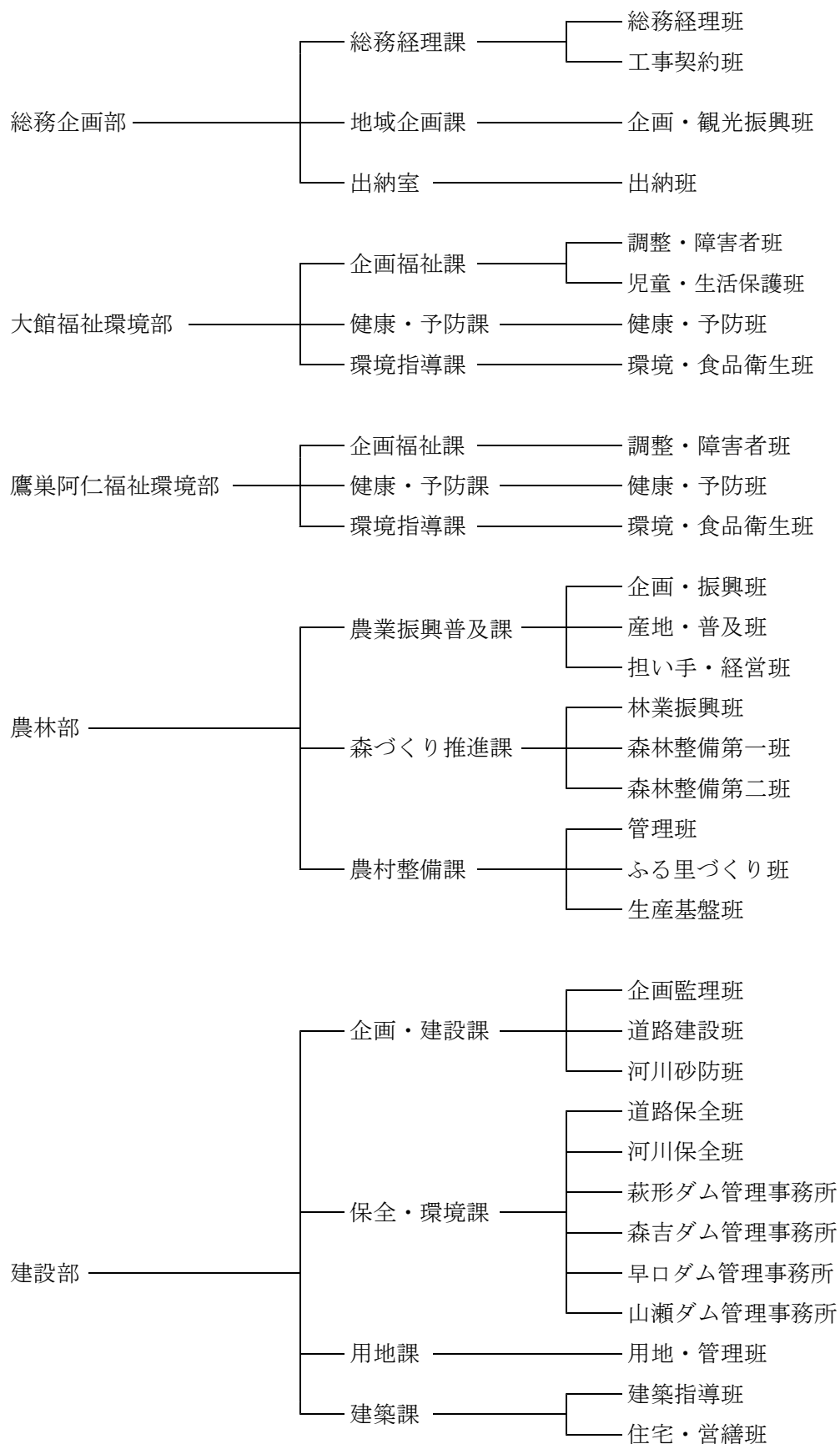
I はじめに

北秋田地域振興局では、令和4年度にスタートした「新秋田元気創造プラン」の着実な展開を図るため、重点施策推進方針を策定し、これに基づく施策・事業を推進することにより、一層活力ある魅力的な地域づくりを進めている。

振興局の組織は、総務企画部、福祉環境部、農林部及び建設部からなり、職員総数は会計年度任用職員を含め、258人（R5.4.1現在）となっている。また、地域における総合的な行政を推進する観点から、地域振興局に属していない地方公所とも密接な情報交換等により連携を図っている。



Ⅱ 組織体制



〔地方公所 等〕

- 総合県税事務所北秋田支所
- 交通政策課秋田内陸線支援班（※現地設置班）
- 北児童相談所
- 生活センター北部相談班（※現地設置班）
- 北部家畜保健衛生所
- 鷹巣技術専門校
- 大館発電事務所
- 大館能代空港管理事務所
- 北教育事務所

Ⅲ 職員数

(R5.4.1現在)

	定 数 内 職 員			定 数 外 職 員				
	正 職 員	専 門 員 (フル)	小 計	専 門 員 技 能 員 (短時間)	非 常 勤 (会計)	非 常 勤 (特別職)	小 計	合 計
地 域 振 興 局 長	1		1					1
総 務 企 画 部	29	2	31	3	9	0	12	43
大 館 福 祉 環 境 部	24	0	24	0	19	2	21	45
鷹 巣 阿 仁 福 祉 環 境 部	15	0	15	0	9	0	9	24
農 林 部	49	1	50	0	7	0	7	57
建 設 部	67	2	69	1	18	0	19	88
合 計	185	5	190	4	62	2	38	258

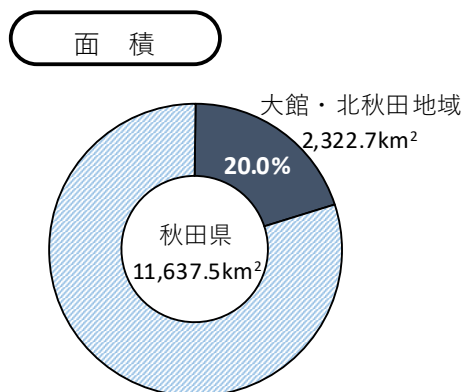
※大館福祉環境部と鷹巣阿仁福祉環境部を兼務する正職員1名は、大館福祉環境部に計上。

V 管内概況

1 地勢

大館・北秋田地域は、県の内陸北部に位置する2市1村（大館市、北秋田市、上小阿仁村）からなり、総面積は2,322.7km²と県全土の約20.0%を占めている。

地形は、中央部を東西に貫流する米代川（管内85.4km）とその支流沿いに平地がひらけ、大館・鷹巣盆地と阿仁部に大別される。地域全体としては山地が多く、北部には白神山地に続く田代岳、中央には森吉山、南部には太平山の3つの県立自然公園を有している。



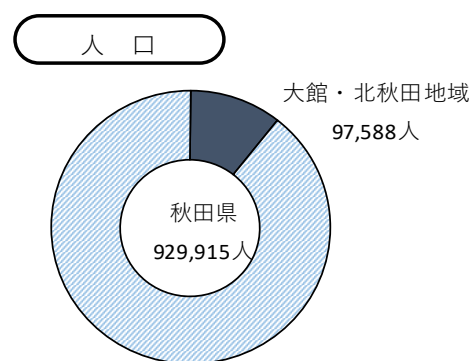
（出典 令和5年版秋田県勢要覧）

2 人口

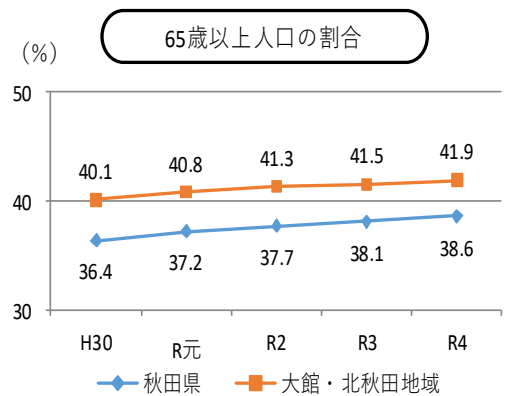
管内の人口は、昭和35年の176,653人（国勢調査）をピークに減少を続け、令和4年10月1日現在で97,588人（県全体の10.5%）となっている。

また、管内の65歳以上人口の割合は41.9%で、県平均の38.6%を3.3ポイント上回っており、県の中でも高齢化が進行している。

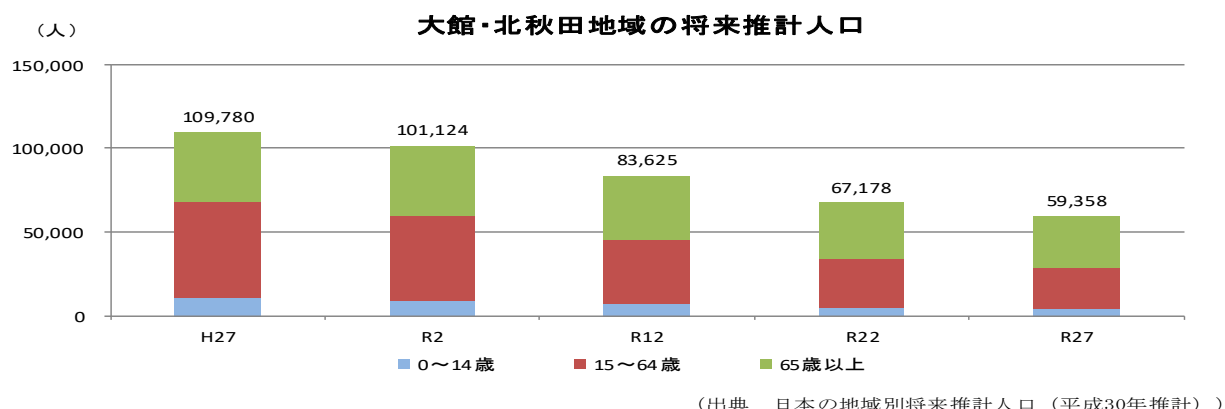
国立社会保障・人口問題研究所による将来推計人口（平成30年3月発表）では、管内の人口はこのまま減少を続け、令和27年には59,358人にまで減少するとされている。また、この間、年少人口（15歳未満）及び生産年齢人口（15歳から64歳）の割合は減少する一方、老年人口（65歳以上）の割合は増加し、令和27年には管内の人口の約51.4%を占める見込みとなっている。



（出典 令和4年 秋田県の人口
—秋田県年齢別人口流動調査報告書—）



（出典 平成30年～令和4年 秋田県の人口）



これに対し、各市村では、平成27年度に人口ビジョンを策定し、その中で様々な施策により人口減少を緩和し、次の人口維持を目指すこととしている。

○各市村が目指す将来人口

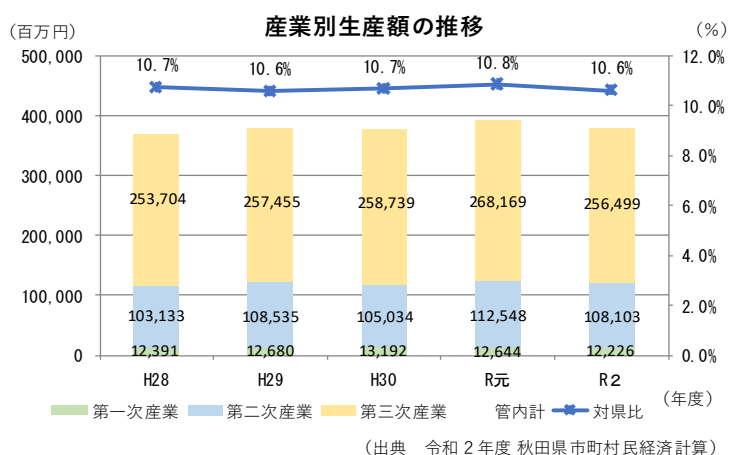
	令和22年(2040年)	令和42年(2060年)	
管内合計	76,790人 [67,178人]	58,340人	
大館市	56,043人 [47,674人]	45,498人	H27.12 大館市人口ビジョン
北秋田市	19,388人 [18,420人]	11,944人	H27.10 北秋田市人口ビジョン
上小阿仁村	1,359人 [1,084人]	898人	H28.3 上小阿仁村人口ビジョン

[] 内は国立社会保障・人口問題研究所推計

3 産業

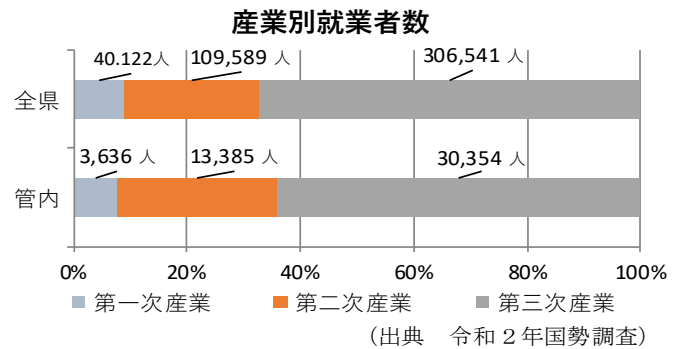
令和2年度における管内の総生産額は約3,741億円で、前年度と比べ約166億円の減少となっており、全県の総生産額(3兆5,305億円)の約10.6%を占めている。

産業別では、第一次産業が約122億円(構成比率3.2%)、第二次産業が約1,081億円(同28.7%)、第三次産業が約2,565億円(同68.1%)となっており、県平均に比べ、第二次産業の比率が高く、第三次産業の比率が低い産業構造となっている。



※第一次～第三次産業の値は、輸入品に課される税・関税等の控除前のもの。そのため、これらの計は管内の総生産額と一致しない。

産業別就業者数の割合は、第一次産業7.7%（県平均8.8%）、第二次産業28.2%（同24.0%）、第三次産業64.1%（同67.2%）と、県平均に比べ、やや第二次産業の割合が高くなっている。



(1) 農林業

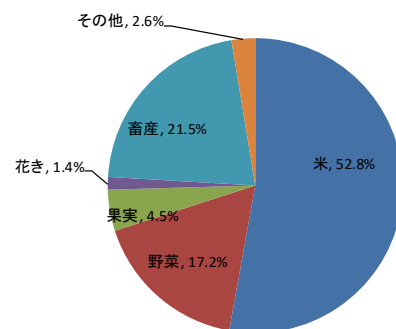
農業については、比内地鶏や山の芋、とんぶり等の特産品の産地であるほか、アスパラガス、きゅうり、ねぎなどの産地としても知られている。

さらに、近年はえだまめやにんにくの生産が急速に拡大しており、新時代を勝ち抜く攻めのトップブランド産地の形成が進んでいる。

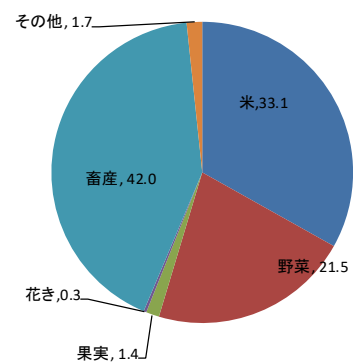
管内の耕地面積は14,279ha（うち田12,208ha、畑2,071ha）、総農家戸数は3,505戸で、うち販売農家数は2,204（62.9%）、自給的農家数は1,301（37.1%）となっている。

また、令和3年の管内の農業産出額は205億円で全県の約12.3%を占めており、その内訳を県平均と比べると、養豚や比内地鶏等の畜産の割合が高く、近年は野菜の割合が高くなってきている。

令和3年秋田県農業産出額割合(%)



令和3年北秋田管内農業産出額割合(%)



○令和3年農業産出額

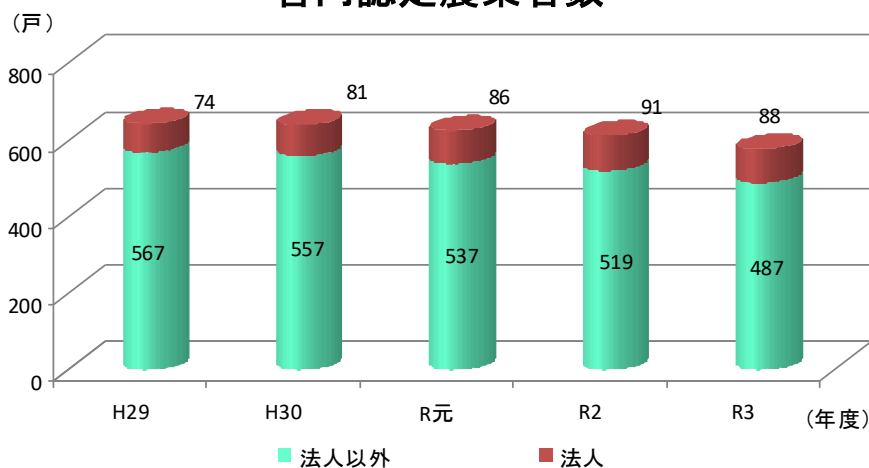
単位：億円

	米	野菜	果実	花き	畜産	その他	合計
大館市	35.7	28.2	2.4	0.5	54.6	1.8	123
北秋田市	29.2	15.0	0.5	0.1	31.2	1.5	78
上小阿仁村	2.9	0.8	0	0	0.1	0.1	4
北秋田地域計	67.8	44.0	2.9	0.6	85.9	3.4	205
秋田県	876	285	75	23	356	43	1,658
北秋田／秋田県	7.7%	15.4%	3.9%	2.6%	24.1%	7.9%	12.3%

(出典 農林水産省資料 令和3年市町村別農業産出額(推計))

近年は、認定農業者や集落型農業法人等の担い手を中心とした生産構造への転換を図るとともに、機械導入によるえだまめ・にんにくの大規模産地化など、農業経営の複合化、多角化を進めている。さらに、経営基盤の強化を図るため、県外からの移住就農を含め、次代をリードする多様な人材の確保と競争力の高い担い手の育成に取り組んでいる。

管内認定農業者数



(出典 県調査 (令和4年3月末現在))

○農業の主要指標

項 目		項目	管内(A)	全県(B)	A/B(%)	摘 要
農 家 数	総農家数	戸	3,505	37,116	9.4	2020年農林業センサス
	販売農家数	戸	2,204	27,780	7.9	
	自給的農家数	戸	1,301	9,336	13.9	
	農業従事世帯員 ※1	人	3,311	42,144	7.9	
	認定農業者	戸	575	8,678	6.6	県調査 (R4.3月末現在)
	集落営農組織	組織	90	706	12.7	
	集落型農業法人	組織	38	373	10.2	
	任意組織	組織	52	333	15.6	
耕 地	耕地面積	ha	14,279	146,268	9.8	作物統計調査 (2022年)
	田	ha	12,208	128,352	9.5	
	畑	ha	2,071	17,916	11.6	

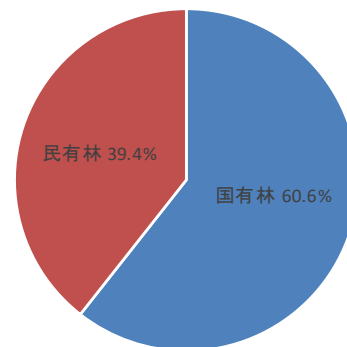
※1) 年間60日以上農業に従事した世帯員、役員・構成員(経営主を含む)

林業・木材産業については、民有林のスギ人工林資源が成熟期に入ってきていることから、スギ原木の低コスト安定生産を図るため、施業の集約化や林内路網整備の推進のほか、生産性の高い作業システムの普及・定着を進めるための高性能林業機械等の導入に取り組んでいる。

管内の森林面積は、194,653haで総面積232,270haの83.8%を占め、そのうち国有

林が117,897ha(60.6%)、民有林が76,756ha(39.4%)となっている。また、山林を所有する林家数は4,258戸で、総世帯数の10.4%を占める。

管内国民有森林割合(%)



(出典 令和3年度版 秋田県林業統計)

○林業の主要指標

項 目		項目	管内(A)	全県(B)	A/B(%)	摘 要	
森林資源	林野率		%	83.8	72.1	—	令和3年度版 秋田県林業統計
	森林面積		千ha	195	839	23.2	
	民有林	森林面積	千ha	77	448	17.2	
		人工林率	%	58.6	57.2	—	
		森林蓄積	千m ³	20,017	122,404	16.4	
森林生産	林内道路密度		m/ha	16.9	17.4	—	
	林道整備密度		m/ha	8.2	7.3	—	
	間伐面積		ha	530	5,447	9.7	
	原木市場売上数量		千m ³	46	111	41.4	
その他	林家数		戸	4,258	22,125	19.2	

(2) 工業

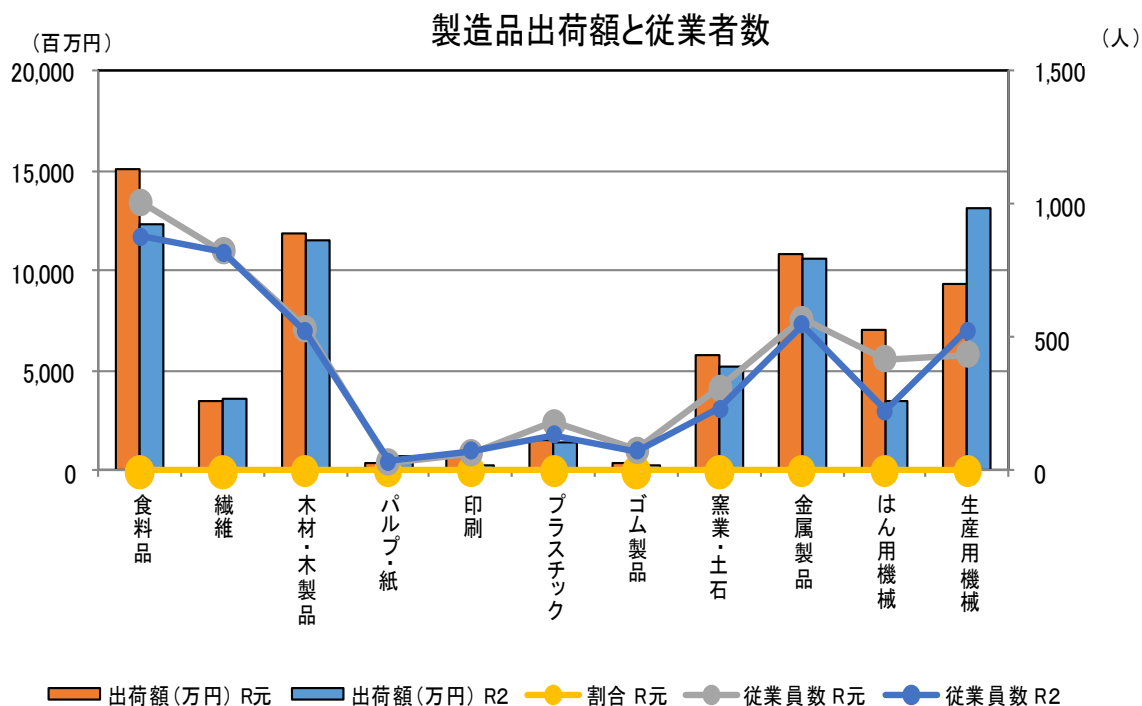
工業については、令和2年の製造品出荷額等は1,818億円、従業者数は8,653人、事業所数は212となっている。

また、日本海沿岸東北自動車道の大館北ICから小坂JCT間が開通し、東北縦貫自動車道に直結したことにより大館市釈迦内産業団地や大館工業団地への企業立地が進んでいる。

ウィズ・アフターコロナ時代の生活様式として「ワーケーション」への注目が高まっている中、管内に点在する様々な特徴を持つ拠点において受入体制の整備が進んでいる。

○北秋田地域の誘致企業

年度	企業名	市村	操業年月	業種
H30	株式会社あしたのチーム サテライトオフィス大館ランド	大館市	H30年 8 月	情報サービス業
R 元	第一日昭工業株式会社	大館市	R 2 年 6 月	生産用機械器具製造業
	株式会社エレックス極東 鷹巣 再生可能エネルギー研修センター	北秋田市	R 元年 7 月	エンジニアリング業
R 3	株式会社オオダテソーイング ファクトリー	大館市	R 3 年11月	製造業
	東洋紡株式会社	大館市	R 6 年 6 月	製造業



(出典 2020、2021年秋田県の工業)

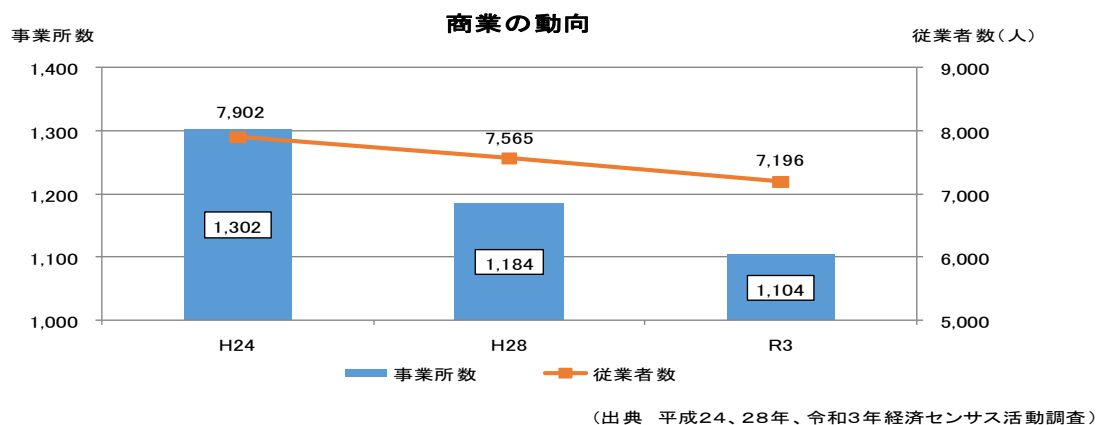
○北秋田地域のワーケーション・サテライト オフィス一覧

施設名	市村	特徴
五色湖ロッジ	大館市	湖畔にあるロッジ。岩瀬川溪流の散策や田代岳の登山が楽しめる。時期によっては、五色湖でのカヌー体験も可能。
ベニヤマ自然パーク	大館市	パーク内に宿泊可能なコテージがあり、春はお花見、夏はキャンプ、秋は紅葉を楽しむことができる。また、徒歩5分の場所に、廉価（大人150円）で入浴できる天然温泉施設がある。
MARUWWA（マルーフ）	大館市	大館駅前で秋田犬の里からも近く、交通の便が良い。ビジネスから観光まで、さまざまな拠点として活用可能。起業創業支援や移住サポートなども行っているため、行政から民間まで多くの業種との交流がある。
MARUWWAニコメ	大館市	大館市の中心部にあるコミュニティセンター。市役所にも近い大町商店街にあり、授乳室やキッズスペースを完備している。また、物販スペースやキッチンもあり、子育て相談や子どもと参加できる教室も随時開催している。
MARUWWA三角	大館市	大館市大町商店街内の車通りの多い交差点の角にあるレンタルオフィス。ライブ配信やオンライン講座などを行うことができるスタジオとして運営しているほか、レンタルキッチンやイベントなど様々な利用が可能である。
東光雪沢テクノパーク	大館市	大館市と十和田湖をつなぐ県道2号（樹海ライン）沿いにある旧雪沢小学校を活用したレンタルオフィス。現在は、ドローン事業の拠点として、農業用ドローン、防災用ドローンなどの開発・製造・教習施設として活用している。5km圏内には、温泉施設があり、十和田八幡平国立公園へのアクセスも便利。
community station KITAKITA（キタキタ）	北秋田市	古い倉庫をリノベーションした小さなレンタルオフィス。オフィスは2階で、1階には施設を運営する設計事務所とカフェスペース、さらに、ワークショップやセミナー、展示会などが開催可能なコミュニティスペースがある。JR鷹ノ巣駅、秋田内陸線鷹巣駅の目の前にあり、大館能代空港まで車で10分、大型スーパーに行けば高速バス乗り場があるなど交通の便も良い。
TANOC（タノック）	北秋田市	JR鷹ノ巣駅、秋田内陸線鷹巣駅から徒歩1分、大館能代空港まで車で10分のTANOCビル内にあるレンタルオフィスとコワーキングスペース。一階のカフェをはじめ飲食店やスーパー等も近い。
レンタルオフィス 鷹巣スポーツ	北秋田市	JR鷹ノ巣駅から徒歩6分。商店街の一角に立地し交通の便は良好。カラオケボックスをリノベーションした施設のため、防音性に優れている。

阿仁比立内 がっこステーション	北秋田市	秋田内陸線比立内駅舎内にある利用料無料のコワーキングスペース。オシャレなカフェのような雰囲気で、フリードリンクや高速フリーWi-Fiを備えており、仕事や休憩に利用することができる。
上小阿仁村集住型宿泊交流拠点施設コアニティー	上小阿仁村	将来にわたり安心して暮らせる地域社会を構築することを目的に、村内外の交流活動の促進を図る施設。起業者向けレンタルルームやリモートワーク可能な会議室があり、自然に囲まれた中山間地域ならではの空間でゆったりとした時間の流れに身を置きながら、集中して仕事に打ち込める環境にある。

(3) 商業

商業については、人口の減少等により、事業所数、従業者数のいずれについても、減少傾向にある。



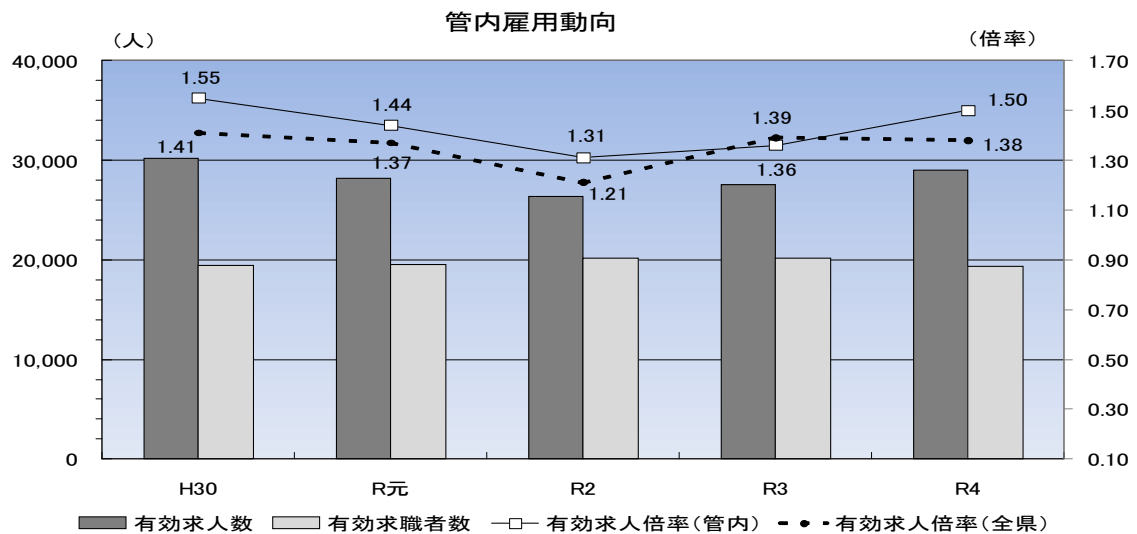
4 経済・雇用状況

(1) 経済動向

製造業では生産用機械で好調な動きが続いているが、新型コロナウイルス感染症による影響が、宿泊業を始め、幅広い業種において広がっており、厳しい状況が続いている。

(2) 雇用動向

管内の年間平均有効求人倍率は、ここ数年、1倍を超え全県平均以上の値で推移している。



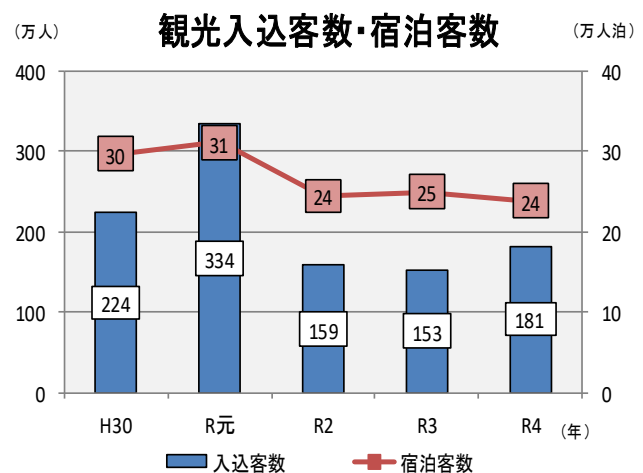
(出典 秋田労働局調べ)

5 観光

管内の入込客数は、令和4年においては1,813,448人で、前年比で21.3%の増加となっている。

宿泊客数は238,846人泊で、前年比で4.4%の減少となっている。

令和4年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、前年と同様に管内におけるイベントの中止等があったものの、一部イベントについては開催したものもあり、全体として入込客数が増加している。



(出典 秋田県観光統計、振興局調べ)

○主要観光地点及びイベント等の入込客数

名 称	令和3年	令和4年
秋田犬の里	108	122
道の駅ひない	99	96
大太鼓の里 ぶっさん館	134	141
森吉山阿仁スキー場	48	35
道の駅かみこあに	294	299

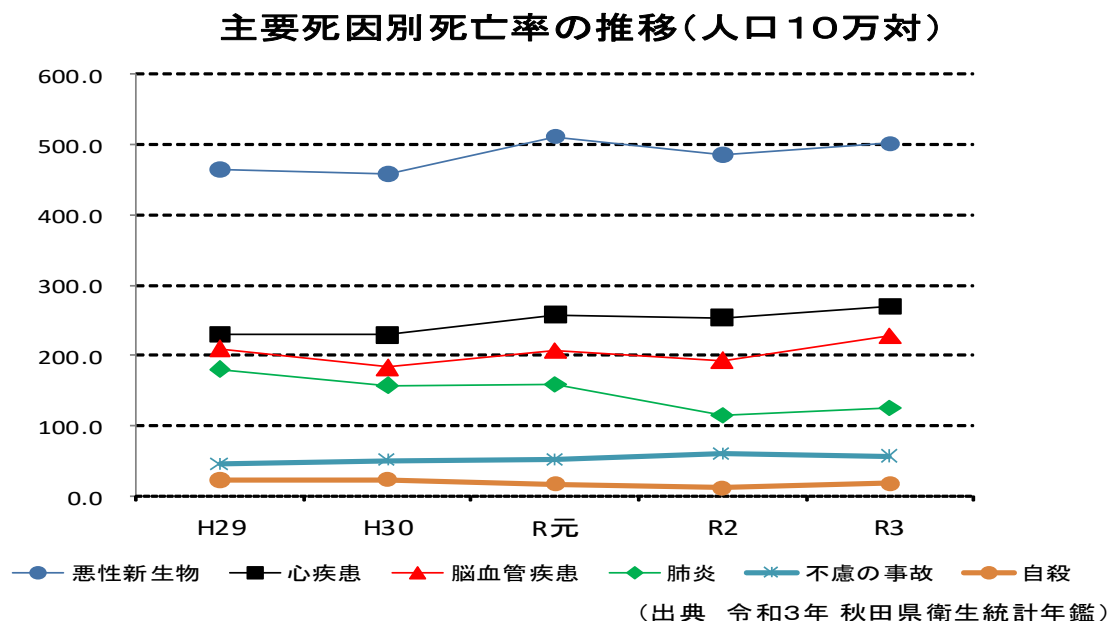
名 称	令和3年	令和4年
大館アメッコ市	12	中止
本場大館きりたんぽまつり	—	66
比内とりの市	中止	中止
もちっこ市	中止	中止

(出典 振興局調べ)

6 保健・医療・福祉

(1) 主要死因別死亡率

令和3年における管内の死亡率（人口千対）は19.5で、全県の17.0に比べ2.5高くなっている。主要死因による死亡率（人口10万対）は、悪性新生物501.3、心疾患270.2、脳血管疾患228.0の順になっている。



(2) 福祉対象者数の状況

令和5年3月31日現在の管内の介護認定者数は10,409人となっている。また、令和5年3月中の生活保護状況は937世帯、1,111人で前年同月より減少している。

(令和5年3月31日現在、単位：人、世帯)

	大館市	北秋田市	上小阿仁村	合 計
介護保険要介護（要支援）認定者数	6,908	3,274	227	10,409
精神障害者数	1,930	893	62	2,885
身体障害者数	3,766	1,587	152	5,505
知的障害児者数	764	410	32	1,206
母子世帯数（※1）	750	243	7	1,000
母子世帯の子どもの数（※1）	1,103	350	13	1,466
父子世帯数（※1）	119	40	5	164
父子世帯の子どもの数（※1）	172	59	10	241
生活保護世帯数（※2）	627	297	13	937
被保護人員（※2）	741	357	13	1,111

※1 令和4年8月1日現在 ※2 令和5年3月中に保護を受けた世帯数及び人員

(3) 保健福祉施設の状況

令和5年4月1日現在の管内の保健福祉施設数は、養護老人ホーム2施設、特別養護老人ホーム15施設、介護老人保健施設4施設となっている。

(令和5年4月1日現在)

	大館市	北秋田市	上小阿仁村	合 計
養護老人ホーム	1	1	0	2
特別養護老人ホーム	9	5	1	15
介護老人保健施設	2	2	0	4

(4) 医療施設の状況等

令和5年4月1日現在の管内の医療施設数は、病院8施設、一般診療所81施設、歯科診療所37施設となっている。

(令和5年4月1日現在)

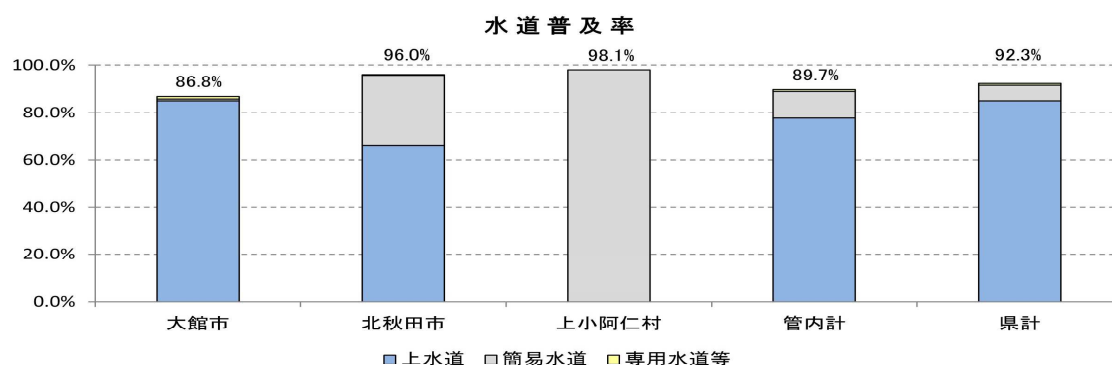
	病院		一般診療所（※）		歯科診療所
	施設数	病床数	施設数	病床数	
大館市	6	1,103	49	16	26
北秋田市	2	464	29	4	11
上小阿仁村	0	0	3	0	0
管内合計	8	1,567	81	20	37

※一般診療所の施設数は、社会福祉施設内に設置している診療所を含む。

7 生活環境

(1) 水道普及率

令和4年3月31日現在の管内の水道普及率は89.7%で、全県の92.3%を2.6ポイント下回っている。

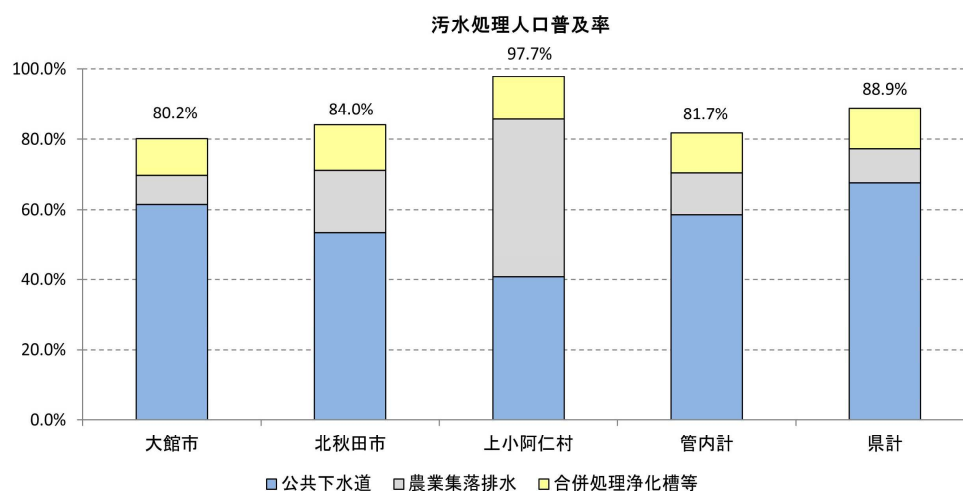


(出典 令和3年度 秋田県水道施設現況調査)

(2) 汚水処理人口普及率

管内では、旧大館市、旧比内町、旧田代町が流域関連公共下水道事業、旧阿仁町、上小阿仁村が特定環境保全公共下水道事業、旧鷹巣町、旧森吉町、旧合川町が単独公共下水道事業として昭和62年度～平成10年度までに事業着手している。現在は、平成17年度の旧合川町を最後に全ての旧市町村が汚水処理を開始している。

管内の汚水処理人口普及率は、令和4年3月31日現在で81.7%と全県の88.9%を7.2ポイント下回っており、一層の整備の促進が求められている。また、流域下水道としては、米代川流域下水道事業大館処理区が昭和61年度から事業着手し、平成4年度に処理を開始しており、幹線管渠延長の整備率は100%（2条管※含む整備率85.0%）となっている。



（出典 2022あきたの下水道）

8 社会基盤・交通

管内の交通状況について、高速道路網では、日本海沿岸東北自動車道・二井田真中 I C～鷹巣 I C間（平成28年10月開通）及び鷹巣 I C～大館能代空港 I C間（平成30年3月開通）に続き、令和2年12月には大館能代空港 I C～蟹沢 I C間が開通した。

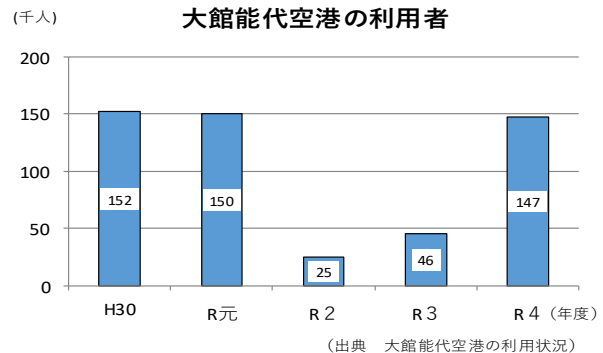
一般道では、国管理の国道7号のほか、県管理の国道103号、国道105号、国道285号が各方面を結び、県道27路線が国道を補完してネットワークを形成しているが、未整備の区間もあるため、早期の整備が期待されている。

※2条管：下水道管渠は、自然流下区間と圧送区間に分類されるが、圧送区間の管渠が損傷等で機能停止した場合に備える予備管渠を2条管という。

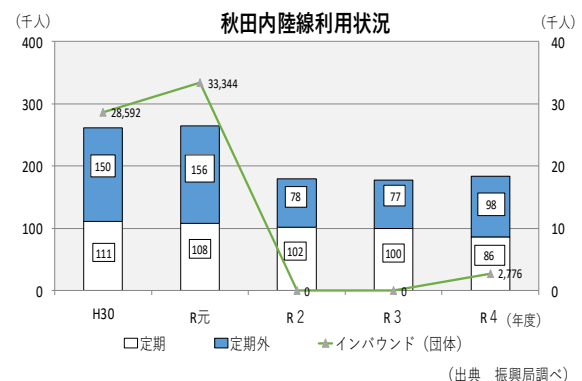
空路では、大館能代空港が平成10年に開港し、令和2年12月には利用者が300万人を突破した。同年5月、大館能代空港東京羽田線は、羽田発着枠政策コンテストにおいて令和5年10月28日までの1便増加が決定され、3往復運行が実現した。

また、令和5年3月の有識者懇談会において、大館能代空港のこれまでの取組が評価され、政策コンテスト枠の延長として、令和7年3月29日までの3往復運航が決定している。

令和4年度の利用者数は、146,585人となっており、前年度比で221.3%の増加となった。新型コロナウイルス感染症の影響がなかった令和元年度とほぼ同数となっている。



鉄道は、JR奥羽本線、花輪線のほか、鷹巣と角館を結ぶ秋田内陸線が第三セクターで運行されている。秋田内陸線の令和4年度の利用人員は、183,681人であり、前年度との比較では、6,489人の増加となっている。インバウンド団体の利用は、新型コロナウイルス感染症の規制緩和以降、回復傾向にあり、今後の利用拡大が期待されている。

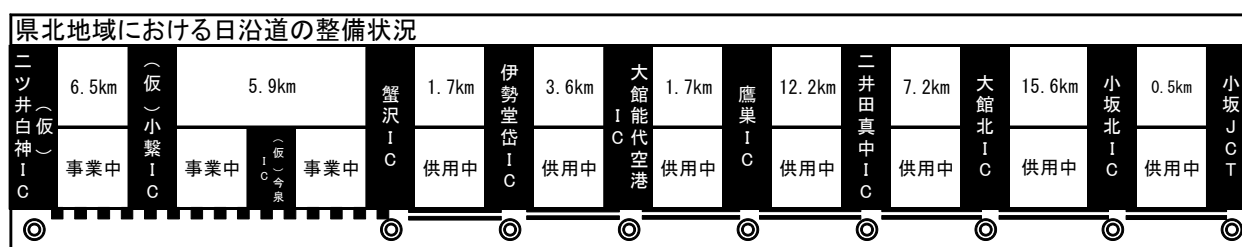


(1) 道路

管内の高速道路は、平成28年10月に日本海沿岸東北自動車道・二井田真中IC～鷹巣IC間が開通したことにより、平成25年の大館市に続き、北秋田市が東北縦貫自動車道に接続された。

平成30年3月に、鷹巣IC～大館能代空港IC間1.7kmが開通したことで、大館能代空港が東北縦貫自動車道に直結している。また、令和2年12月に大館能代空港IC～蟹沢IC間5.3kmが開通し、国道7号へのアクセスがより向上した。

現在、二ツ井今泉道路(L=5.9km)及び二ツ井白神IC～小繫IC間(L=6.5km)については、国施行による事業が進められている。



一般国道では、国直轄管理の国道7号が管内北部を東西から青森県境に北上し、県管理の国道103号が大館市から東西に鹿角地域と、国道105号が中央部を南北に大曲仙北地域と、国道285号が秋田市周辺地域と結ばれており、地域間交流・連携を支えるネットワークを形成している。また、主要地方道では鷹巣川井堂川線など9路線、一般県道18路線で地域内交通のネットワークを形成している。

このうち、国道105号の郡境部の大覚野峠区間5.7kmについては、令和3年3月より国直轄権限代行「大覚野峠防災」事業が進められている。

県管理道路の総延長は30路線、441.27kmでその改良率は77.5%、舗装率は95.2%となっており、県全体の改良率79.2%、舗装率97.3%に比べてどちらも北秋田管内が低くなっている。これらの路線は地域の発展や活性化に不可欠な路線であり、厳しい財政状況が続く中でコスト削減に努めながら整備促進を図っている。

(2) 河川

管内の河川は、国直轄管理の米代川（一部県管理8.3km）のほか、仙北市田沢湖町との境界の榎森に源を発し、北秋田市山間部を流れ能代市二ツ井町下田平地区で米代川に合流する阿仁川（管理区間延長60.7km）や阿仁川に流入する小又川、小阿仁川など41河川、管理延長457.924kmとなっている。このうち、築堤済区間が173.575km、無堤区間が142.843km、築堤不要区間が141.506kmで整備率は54.9%となっている。